

動物は愛情と責任を持って飼育しましょう

問い合わせ 環境政策課 ☎9132

9月20日～26日は「動物愛護週間」です。人も動物も幸せに暮らせるまちを目指しましょう。ペットは人に安らぎを与えてくれますが、飼い方により近所とのトラブルになることもあります。市ではペットに関するトラブルが増えています。あなたのペットが近所に迷惑を掛けていないか、もう一度確認してみましょう。



犬 鳴き声
犬は恐怖や不安、ストレスを感じるとき、警戒したり甘えたりするときに鳴きます。鳴くことは犬にとって自然な行動ですが、過剰、頻繁に鳴くと近所に迷惑を掛けることになります。鳴き声を完全に無くすことはできませんが、犬の習性をよく理解し、適正に飼育しましょう。頻繁に鳴く場合は飼い主の責任として改善方法を考えましょう。

ポイント
まず、「いつ」「どこで」「どのようなとき」に鳴くのかを観察し、原因を考えましょう。①通行人が見えたり、外部の音が聞こえたりして落ち着かず、鳴くこともあります。②運動不足が原因である場合も考えられるため、しっかりと散歩をして、ストレスを解消できるようにしましょう。

③体調不良や、老化による認知症といった場合もあります。獣医師に相談しましょう。

これはあくまでも一例です。個体差などによりなかなか改善されない犬もいます。それぞれの犬に合った方法で行いましょう。

放し飼い
近年、人や他の飼い犬に危害を与えるといった事故報道もあります。「広島県動物愛護管理条例」では犬の放し飼いが禁止されています。散歩のときも犬は必ずリードでつなぎましょう。

周辺環境
散歩するときには、尿は水で流し、ふんは必ず持ち帰り、周辺の環境にも気を配りましょう。



猫 屋内飼育
猫は上下に動ける空間とトイレ、爪とぎができる場所があれば、室内でもストレスが溜まることはありません。

交通事故や病気をうつされることなく、猫にとっても安全です。首輪や名札を付けて屋内で飼育しましょう。

不妊・去勢手術
飼い主がいらない猫を増やさないためにも、手術をしましょう。子猫が産まれたら、責任を持って新しい飼い主を探しましょう。

餌やり
野良猫に無責任に餌だけを与えていると、飼い主がいらない子猫が増えたり、猫が車などを傷つけたりするなど、地域の皆さんに迷惑を掛けることとなります。

餌を与え、飼養している時点で、管理する義務を負うことになりますので、置き餌をせず、飼い猫と同様の管理をしてください。

動物を飼うことは、簡単なことではありません。健康で幸せに暮らせる環境を用意し、地域社会にも受け入れられるよう適正に飼育しましょう。また、最後まで家族の一員として、愛情と責任を持って飼育できるように家族でよく話し合ってみましょう。



はつかいち平和の祭典実行委員会と市民活動センターが「廿日市市から見た原爆の記憶―昭和20年8月6日午前8時15分それからの廿日市」と題したDVDを制作しました。市内在住の4人に、それぞれ原爆が落ちた時、どこで何をしていたのかを中心にインタビューした映像です。

廿日市市から見たこの雲の様子をイメージ映像化したものや当時の写真、被爆者の救護所となった小学校の様子などを伝える内容です。平和学習などで活用できるように、無料で貸し出しもしています。

貸出場所 市役所4階生涯学習課、各図書館

戦争の語り 保存継承

問い合わせ 地域政策課 ☎9138

はつかいち平和コンサート2016

平和の響き、「共生」の風、はつかいち…から。

問い合わせ 生涯学習課 ☎9203



7月23日、今年もさくらびあ大ホールで開催された「はつかいち平和コンサート2016」。平和の大切さや命の尊さを改めて考えようと来館した皆さんで、ホールは満席になりました。

今回は日本各地で活躍するプロと、公募で集まったアマチュア・ジュニアで結成された「はつかいち・ピース・メモリアル・オーケストラ2016」が演奏を担当し、「廿日市市合唱連盟コールフェス



写真上・オーケストラは8歳～71歳の約50人、合唱団は8歳～90歳の約150人で結成。市内在住の松本憲治さんが音楽監督・指揮を担当しました。**左**・市内出身のソプラノ歌手、山口さん（左）と工谷さん。力強く伸びやかな歌声を響かせました。

タ」や「はつかいち平和コンサート2016合唱団」、市内出身のソプラノ歌手である山口水蜜さんと工谷明子さんが平和な世界を願って熱く歌いました。一部では平和に関する名曲の数々を、2部では唱歌メドレー「春歌」を披露。国や世代、生き方などの違いを越えて、共に生きることの大切さを訴えたコンサートは、今年も盛大な拍手を受け、幕を下ろしました。

はつかいち平和ツアー in 広島2016

問い合わせ 国際交流協会 ☎0116



8月4日～8日の5日間、国際交流協会主催の平和ツアーが行われ、17カ国から19人が参加しました。4日に原爆ドームと資料館を見学、5日には市民活動センターで被爆体験を聞き、意見交換をしました。体験を話したのは、小学6年生の時に爆心地から1.4kmの加古町で被爆した山中恵美子さん。つらい記憶を呼び起こし、懸命に語りました。「私は被爆体験を語るために被爆したわけではありません。生き残った者の使命として、戦争の悲惨さを伝えていかなければなりません。ヒロシマを訪れ、見て、聞いて、感じ



たことを伝えていってください。今回体験を話したこと、世界をリードする若い参加者の皆さんに平和のバトンを託せたことを心から感謝します」と力強く話してくれました。

参加者たちは6日に平和記念式典に参列し、世界平和への思いをこめました。



写真1・ホストファミリーと一緒に折り鶴を折る参加者。**2**・山中さんは世界中で体験を語っています。**3**・山中さんの孫である桑原和美さん。山中さんの意思を受け継ぎ、さまざまな場所で平和を守っていくことの大切さを訴えています。**4**・熱心に体験を聴く参加者たち。**5**・西アフリカから参加したキエンドレバオゴ・ジュードネさん。グループで、平和に関する教育が大事だと熱く討論しました。

